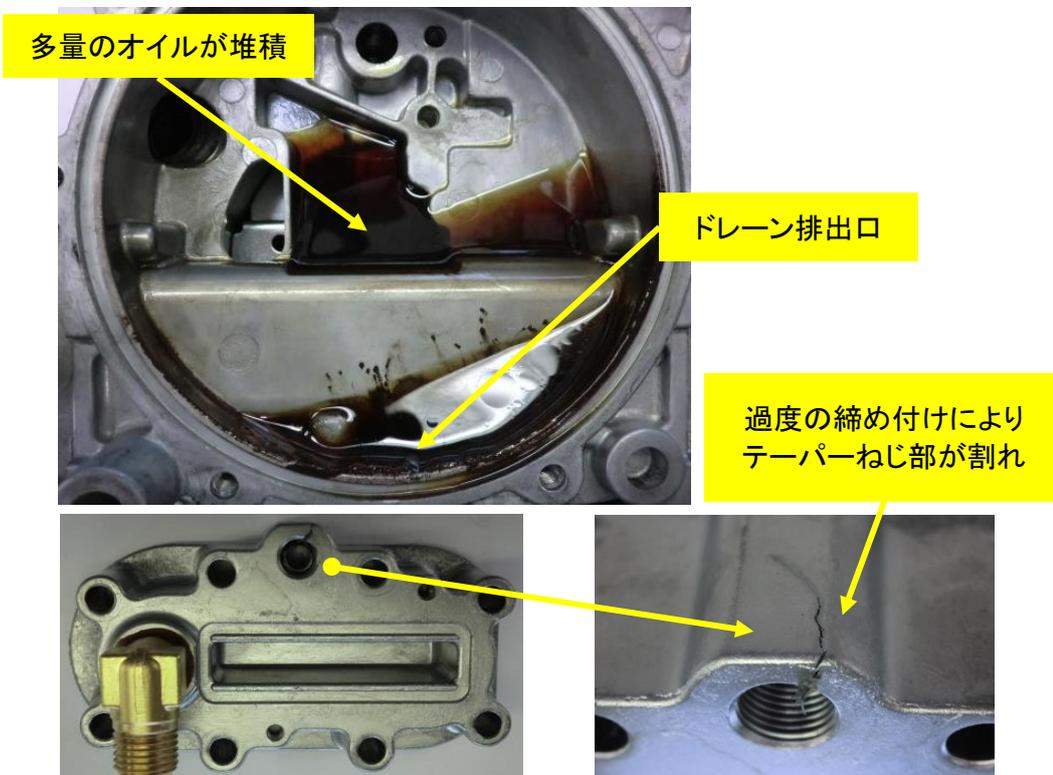


IV. 噴射システムのベーパーライザ

1. オイルドレンについて

噴射システムのベーパーライザは、燃料圧力を30kPaで制御しインジェクターへ供給しますので、非常に微圧を制御しますミキサーシステムのベーパーライザより敏感ではなく、定期的な調整も不要です。しかし燃料性状によってはオイルが堆積し、低温時の粘度変化等により性能に影響する場合があります。この堆積したオイルは、ミキサーシステムですとドレンコックにより簡単に抜くことができますが、圧力が高い噴射システムは安全上コックを設けられませんので、テーパねじプラグからオイルを抜く必要があります。この時、プラグ装着時に大きなトルクで締め付けますと本体ボデーを破損させてしまいます。(下記写真) また、頻繁にプラグを脱着していますとテーパねじが広がりシールができなくなってしまいます。このような場合はやはり定期的なリビルト交換を推奨します。



2. PTCヒータ

噴射システムの国内向けベーパーライザにはPTCヒータが装着されています。これは冷却水が温まっていない冷間時に、PTCヒータにより燃料を気化させています。このPTCヒータはリングによりシールされていますが、まれに表面電極が変色し抵抗値が変化したり、また、脱着時に破損させてしまう場合があります。冷間時にLPガスでの始動性が悪い場合は、このPTCヒータも問題要因として考えて下さい。なお、弊社のリビルトベーパーライザは、PTCヒータを分解して抵抗や外観を確認し、異常があれば新品PTCに交換しています。

